

入沢さんの 第10回



受賞者の入沢康夫さん

「大きな励ましです」

作品紹介や受賞の喜び

第十回秋原朔太郎賞を受賞した作品と受賞者を紹介します。

受賞作のあらまし

詩集には十一編の詩が収められており、表題作は二十七ページもの大作。選考委員代表の天沢退二郎さんは「長年の詩作の到達点であり、さらにそれを突き抜けた新しい境地を切り開いている」と話し、充実した候補作品の中でも抜きんでて優れていた」と選考理由を述べました。

入沢さんのプロフィール

昭和六年十一月三日、島根県松江市生まれ。東京大仏文科卒。同大大学院修士課程修了。出版社勤務、明治学院大、東京工大を経て明治大教授となり、今年三月定年退職。専門は仏文学で、『ネルヴァル全集』の翻訳など、多

くの翻訳・論文があります。

大学時代から詩作を始め、『倅せそれとも不倅せ』を昭和三十年に刊行。受賞作品は二十冊目の詩集になります。また、宮澤賢治の詩作研究でも有名。

これまでH氏賞、読売文学賞、

高見順文学賞、藤村記念歴程賞、現代詩花椿賞、毎日芸術賞、宮澤賢治賞を受賞しました。

受賞の言葉

受賞した入沢さんの喜びの言葉は次のとおりです。

「偉大な詩人秋原朔太郎の名を冠した賞をいただくのは、非常に光栄で、主催者、協力・協賛者、選考委員、そしてその他の関係者各位に、心からのお礼を申し上げたいと思います。日ごろ、詩作の上で、かなりわが

この賞は市制施行百周年を記念し創設され、市と秋原朔太郎賞の会」が主催。日本近代詩史に大きな足跡を残した秋原朔太郎の業績を永く顕彰するため、最も優れた文学作品に贈られます。市民文化向上を目指し、本市から文化を発信することが目的です。歴代受賞者は次のとおり（敬称略）。

朔太郎賞とは

- 第1回 谷川俊太郎
- 第2回 清水哲男
- 第3回 吉原幸子
- 第4回 辻征夫
- 第5回 沢沢孝輔
- 第6回 財部鳥子
- 第7回 安藤元雄
- 第8回 江代充
- 第9回 町田康

ままで孤独な試行を重ねてきたわたしにとって、この賞は、じつに大きな励ましであります。

氏名・電話番号・贈呈式参加希望」を明記し、〒371 0022 前橋市千代田町三丁目二一〇・前橋文学館へ

記念イベント

日時 10月27日 午後2時40分
対象 一般、先着百三十人
内容 入沢康夫さんの記念講演、秋原朔太郎の詩の朗読など
申し込み 当日会場へ直接

賞の贈呈式
や
記念イベント
10月27日・文学館で

贈呈式

第十回秋原朔太郎賞の贈呈式と記念イベントが、前橋文学館で行われます。なお、贈呈式は事前の申し込みが必要です。

日時 10月27日 午後1時30分
対象 一般、六十人（抽選）
内容 選考経過の説明や賞の贈呈 申し込み 10月15日（必着）までに往復ハガキで。住所・